

Newell, 1998 : Correlations of NO_x with O₃ and CO over the Western Pacific during PEM-West B, Proc. Quadren. Ozone Symp. 1996, 387-390.

Koike, M., Y. Kondo, H. Ikeda, G. L. Gregory, B. E. Anderson, G. W. Sachse, D. R. Blake, S. C. Liu, H.

B. Singh, A. M. Thompson, K. Kita, Y. Zhao, T. Sugita, R. E. Shetter and N. Toriyama, 2000 : Impact of aircraft emissions on reactive nitrogen over the North Atlantic Flight Corridor region, J. Geophys. Res., 105, 3665-3677.

2001年度日本気象学会奨励賞の受賞者決まる

受賞者：出口 一（福岡管区気象台）

研究題目：アメダスとレーダーのデータを利用した降水の地域分布に関する研究

選定理由：出口会員は、1984年に気象庁に入庁した後、九州各地で観測・予報などの業務に従事しながら、各県の詳細な天気分布の推定とそのための観測解析手法の問題点の改善に取り組んできた。とりわけ、アメダスやレーダーのデータの効果的な利用方法の開発に力を入れ、「お天気マップ的ガイダンス」など予報業務に利用できるいくつかのソフトウェアを作成したほか、レーダーデータやこれを加工した2次データに含まれる問題点を取り上げ、それらを考慮した合理的な利用方法を考案した。また、降水の同時発生率を手がかりにしてその地域特性を調べ、より効果的な気象情報や天気予報発表のための地域細分方法を提案している。これらの研究は、既存の観測網から情報を最大限に取り出すための地味ではあるが創意工夫が見られる努力の積み重ねである。そして、例えば大雨をもたらす積乱雲群が通過しやすい地域はどこかというような、従来は経験的な認識にとどまっていた事柄を統計的な面から明確にしたものとなっており、天気予報や防災情報に関する気象業務の改善だけでなく、降水の地域特性を気候学的に明らかにしたという学術的意義も大きい。よって、日本気象学会は出口一会員に今年度の奨励賞を贈るものである。

参 考 文 献

出口 一, 1995 : 大雨の通る道, 福岡管区気象研究会誌, 56, 46-47.

出口 一, 1997 : 最適発現率法, 平成9年度全国予報技術検討会資料, 4-6.

出口 一, 1997 : 分布予報置換パターンの作成, 福岡管区気象研究会誌, 58, 192-193.

出口 一, 保谷信親, 1998 : お天気マップ的ガイダンス, 平成10年度全国予報技術検討会資料, 16-17.

出口 一, 毛利浩樹, 1998 : 最適発現率法のソフトウェア化, 平成10年度全国予報技術検討会資料, 6-8.

出口 一, 1998 : 降水同時発生率を用いた降水の地域特性, 気象庁研究時報, 50, 別冊, 194-195.

出口 一, 1999 : 降水同時発生率を用いた福岡県の地域細分, 気象庁研究時報, 51, 別冊, 212-213.

出口 一, 2000 : 解析雨量, 土壌雨量指数, 履歴順位データの問題点, 福岡管区気象研究会誌, 61, 28-29.

出口 一, 2001 : 九州および山口県における解析雨量・土壌雨量指数・履歴順位の出現特性と降水同時発生率による地域細分のための基礎資料, 福岡管区気象台要報, 56, 1-124.

受賞者：大久保 篤（富山地方気象台）

研究題目：冬季北陸地方における渦状擾乱およびシア・ラインの研究

推薦理由：大久保会員は、1979年に東京航空地方気象台に採用された後、主として新潟、富山の各地方気象台での予報現業に勤務のかたわら、北陸地方のメソ現象に関わる調査を精力的に行い、その成果を予報作業に活かしてきた。特に冬季の渦状擾乱については、自ら乗船して得た日本海上のデータを解析し、渦状擾乱がTボーン構造をした温帯低気圧に似ていることを明らかにした。さらに、富山県沿岸に形成され強い雪や視程不良をもたらすシア・ラインの立体構造を解析し、その高さが300~400mであること、南側は山間部からの冷気流出による南風であり、北側の南西風は一般場の風が地形により変形した結果であること等を見出した。これらの研究成果は、沿岸部の大雪や視程不良、強風などの予測において、数値モデルを補う資料として予報作業に利用されている。このように、大久保会員の一連の研究は、冬季の北陸地方におけるメソ現象について気象学的に貴重な知見を提供するとともに、大雪、強風、視程不良など防災上重要な現象の予測改善へ向けて確実な前進をもたらすものである。よって、日本気象学会は大久保 篤会員に今年度の奨励賞を贈るもので

ある。

参 考 文 献

- 大久保 篤, 1995: 冬季の北陸地方に見られる2種類の渦状擾乱, 天気, 42, 705-714.
 大久保 篤, 1997: 冬季季節風卓越時の北陸沖に形成された渦状擾乱の構造と解析—1995年2月5日啓風丸特別観測の事例解析—, 天気, 44, 241-250.
 大久保 篤, 黒川美光, 2000: 冬型気圧配置時に富山県内に形成される強い降雪や悪視程を伴うシア・ラインの立体構造, 天気, 47, 255-266.

受賞者: 加治屋秋実 (大島測候所)

研究題目: 伊豆諸島北部における冬季季節風および収束線に関する研究

推薦理由: 加治屋会員は, 1979年に東京航空地方気象台に採用された後, 主に大島測候所での現業勤務のかたわら, 伊豆諸島北部地域に特有の現象について精力的に研究を続け, その成果を強風や高波等の予報・警報業務に活かしてきた。特に, 冬季季節風を対象にした研究を進め, 風系のタイプを総観場と関連づけてパタン化するとともに, 季節風に付随してしばしば現れる収束線について, その発生から解消までの過程や変動機構を統計的に解明した。さらに, 漁業関係者が「競り合い波」と呼んで警戒している局地的な高波について調査を進め, 「競り合い波」が

収束線南側の西風による波と収束線北側の北東風による波との合成波であること, 伊豆諸島北部が「競り合い波」発生の特異な場になっていること, さらにその発生が収束線の停滞時間と強い西風の継続時間に関連していること等を見出し, 波浪予測の改善へ現象面からの道筋を開いた。こうした一連の研究は, 強風や波浪の予報精度を向上させることを通じて海難事故の防止に寄与するとともに, 地形が局地風系や特異な波浪現象に及ぼす効果について気象学的に貴重な知見を提供している。よって, 日本気象学会は加治屋秋実会員に今年度の奨励賞を贈るものである。

参 考 文 献

- 加治屋秋実, 1991: 伊豆諸島北部における冬季季節風の予測, 東管技術ニュース, 105, 19-26.
 加治屋秋実, 1996: 伊豆諸島北部に発生する地形性収束線の移動機構, 気象庁研究時報, 48, 181-191.
 加治屋秋実, 1997: 伊豆諸島北部に発生する収束線付近の競り合い波, 気象庁研究時報, 49, 121-133.
 加治屋秋実, 1997: 収束線付近の競り合い波 (部外資料による追試), 東京管区気象研究会誌, 30, 90-91.
 加治屋秋実, 1999: 波浪予警報業務改善の検討, 東京管区気象研究会誌, 32, 16-17.
 加治屋秋実, 1999: 伊豆諸島北部の波高分布特性, 東京管区気象研究会誌, 32, 164-165.

2001年度秋季大会期間中の保育施設の紹介について

日本気象学会2001年度秋季大会実行委員会

なお, 不明点の問い合わせは下記にお願い致します。

〒464-8601 名古屋市中種区不老町

名古屋大学大学院環境学研究所 永尾一平

電話: 052-789-3484, FAX: 052-789-3436

e-mail: nagao@ihas.nagoya-u.ac.jp

日本気象学会会員 各位

10月10日~12日に岐阜市で開催される表記大会に参加される会員のために, 岐阜市内の保育所(園)の一覧が掲載されているホームページを紹介致します。利用を希望される会員の方は下記のURLからご希望の保育所(園)にご相談下さい。

<http://www.city.gifu.gifu.jp/docs/kosodate/hoiku/eqsi.html>